

都市再生整備計画 事後評価シート
三郷インターチェンジ周辺地区

平成23年3月

埼玉県三郷市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	三郷市	地区名	三郷インターチェンジ周辺地区			面積	273ha
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	583百万円	国費率	0.377		

1)事業の実施状況		当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
		基幹事業	提案事業	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(市道3471号線)		河川整備計画と併せ、整備する予定であったが、河川整備計画の遅れにより取りやめ。		来街者数と自動車分担率の指標に関連するが、数値目標は据え置く。			
	提案事業	まちづくり活動推進事業(①駐車場情報ナビシステム、②渋滞末尾型パーク&バスライド)		①:計画当初は渋滞がひどかったが、最近は落ち着き、必要性がなくなった為、とりやめる。 ②:①と同様の理由で必要性がなくなった為、とりやめる。		自動車分担率の指標に関連するが、数値目標は据え置く。			
	基幹事業	道路(市道2055号線、無名2020号橋)		市道2055号線については新三郷ららぼーと周辺の商業・流通施設や常磐自動車道・三郷料金所スマートICから三郷ICとを結ぶ主要な道路として位置づけ配送者等を誘導することで居住区域内への流入を抑制し住環境を保全する。そのために現在大型車通行制限をかけている既設橋梁(無名2020号橋)の架け替えを新たに追加する。		来街者数と自動車分担率の指標に関連するが、数値目標は据え置く。			
	提案事業	なし		-		-			
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-			
		変更	-						

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	樹木・街路樹の緑の多さの満足度	点	△ 4.15	H15	△ 3.00	H22	△ 2.91	○	あり なし	道路沿道に植樹、公園の整備を行ったことが、地区内の満足度に対する数値改善に繋がった。	なし	
指標2	来街者数	万人	1,200	H17	1,400	H22	1,423	○	あり なし	計画通りに整備が進み道路の渋滞も緩和されたことがリピーターと新規の来街者の増加に繋がった。	平成24年5月	
指標3	地区内人口	人	220	H17	500	H22	923	○	あり なし	計画通りに住宅地の整備が進み、順調に人口が増加している。	平成23年4月	
指標4	自動車分担率	%	80	H17	75	H22	62	○	あり なし	徒歩や自転車での来場者の増加はソフト事業の整備の効果であるといえる。	平成24年5月	

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	指標1の補完 住民1人当たりの公園面積	m ² /人	0	H18			13.47				地区内に公園の整備を行ったことが、満足のいく数値へと繋がった。	平成24年5月
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

4)定性的な効果発現状況

- ・土地区画整理事業等による都市計画道路の整備事業、「散歩して回廊」事業による地区外との道路ネットワークの強化や街の魅力の向上により、新三郷駅に立地した大規模商業施設や三郷中央駅周辺開発からの来街者を取り込むことが可能となり、相乗効果を発揮している。
- ・各種事業を進めるにあたり関係各課と協議を行ったり、公園のワークショップを通じて地区住民と庁内職員とのコミュニケーションが図れた。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	実施内容	実施状況	モニタリング	評価値	
5)実施過程の評価	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	管理は地元町会に委託し、必要に応じて市も実施していく。
	住民参加プロセス	公園設計におけるワークショップ	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	地域活性化のための町会創設	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	新しく生まれた地区の交流を促すため、市も必要あれば協力する。	
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

三郷インターチェンジ周辺地区(埼玉県三郷市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標 ピアラシティの賑わいと周辺の田園創造地との調和に配慮したまちづくり 目標1 街と田園地区とが共存する街並み形成 目標2 街の多機能化の推進 目標3 地域住民が水と緑を体感できる環境整備・散策路「散歩して回廊」の提案 目標4 地域住民への余暇、レクリエーションの場の提供	樹木・街路樹の緑の多さの満足度	単位: 点	Δ 4.15	H15	Δ 3.00	H22	Δ 2.91	H22
	来街者数	単位: 万人	1,200	H17	1,400	H22	1,423	H22
	地区内人口	単位: 人	220	H17	500	H22	923	H22
	自動車分担率	単位: %	80	H17	75	H22	62	H22
	住民1人当たりの公園面積(その他の指標)	単位: m ² /人	0	H18			13.47	H22

二郷半用水緑道

1号街区公園

散策路「散歩して回廊」

中川水循環センター上部利用施設

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業や道路事業の効果によって自動車でのアクセスの利便性が増加し、二郷半緑道の整備により歩道部分の安全性が確保された。 ・中川水循環センターの上部を多目的広場として緑地化し、運動公園としてオープンしたことで、地区内の魅力が高まった。 ・二郷半用水の緑道の連続性を求められていたが、整備した効果で景観や自転車や徒歩でのアクセスの利便性が向上した。引き続き、未整備緑道部分の整備を図る必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズな交通を確保、維持、向上のため、地区外未整備部分の道路の整備を行い、地区内に係る既存の道路との更なる調和を図る。 ・二郷半緑道は景観保護のため、街路樹等の適切な整備や管理を行い、四季の彩りも楽しめるようにする。また、地区外未整備部分についても整備を行い、緑道の連続性を確保すると共に、自転車と歩行者を分離する自転車専用通行帯設置準備方策を実施する。 ・中川水循環センター上部利用施設を活用し、更にまちの魅力を高めるために、施設を利用したイベントを設ける。 ・第二大場川は今年度から、埼玉県により水辺再生事業検討会議を発足しており、この会議を通じて、河川の美化及び親水性ある整備を行うよう埼玉県に働き掛ける。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道3471号線	220百万	L=57m w=8.0m	—	—	河川整備計画と併せ、整備する予定であったが、河川整備計画の遅れにより取りやめ。	来街者数と自動車分担率の指標に関連するが、数値目標は据え置く。	—	—
道路	市道2055号線 (無名2020号橋)	—	—	72百万	L=51m(内橋梁20m) w=車4m、歩2m	2055号線を主要な道路として位置づけ、その為に大型通行制限をかけている無名2020号橋を新たに架け替える。	来街者数と自動車分担率の指標に関連するが、数値目標は据え置く。		●
公園	三郷インターA地区1号街区公園	—	—	69百万	5433㎡	インターA地区土地区画整理の事業進捗により、期間内の整備が必要になった為。	緑の多さの満足度の指標に関連するが、数値目標は据え置く。	●	
公園	三郷インターA地区2号街区公園	71百万	2000.51㎡	23百万	2000.51㎡	住民参加のワークショップの結果を踏まえて、整備内容を見直したため変更する。	緑の多さの満足度の指標に関連するが、数値目標は据え置く。	●	
公園	三郷インターA地区3号街区公園	110百万	2500.57㎡	4百万	2500.57㎡	事業進捗状況を踏まえ、事業期間内に整備が困難となった為、設計費のみに変更する。	緑の多さの満足度の指標に関連するが、数値目標は据え置く。	●	
公園	三郷インターA地区4号街区公園	89百万	2500.55㎡	34百万	2500.55㎡	住民参加のワークショップの結果を踏まえて、整備内容を見直したため変更する。	緑の多さの満足度の指標に関連するが、数値目標は据え置く。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	二郷半緑道(緑地)	102百万	L=700m w=8m	122百万	L=700m w=8m	緑道に隣接する既存の歩道部分の損傷が著しく、整備する必要が生じたため。	緑の多さの満足度と来街者数の指標に関連するが、数値目標は据え置く。	●	
地域生活基盤施設	中川水循環センター上部利用施設(広場)	72百万	6.4ha	72百万	6.4ha	変更なし。	—	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	散策路「散歩して回廊」整備	20百万	—	187百万	L=430m	地区を拡大し、緑道整備のためのスペースを確保するため、二郷半用水路の整備を追加した。	影響なし。		●
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業	駐車場混雑情報ナビシステム	30百万	システム設備費	—	—	計画当初は渋滞がひどかったが、最近 は落ち着き、必要性がなくなった為取り やめる。	自動車分担率の指標に関連するが、数値目標は据え置く。	—	—
	渋滞末尾型パーク&バスライド	25百万	システム設備費	—	—	上記と同様の理由で必要性がなく なった為、取りやめる。	自動車分担率の指標に関連するが、数値目標は据え置く。	—	—

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
三郷インターA地区土地区画整理事業		三郷インターA地区	22160百万	22025百万	平成10年～平成21年	平成10年～平成24年	—	
三郷インターA地区近隣公園整備事業		三郷インターA地区	285百万	285百万	平成21年～平成22年	平成21年～平成22年	—	
三郷インター南部土地区画整理事業		三郷インター南部地区	11206百万	11206百万	平成20年～平成27年	平成20年～平成27年	—	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし	
指標1	樹木・街路樹の緑の多さの満足度(市民意識調査)	点	△ 6.26	H5	△ 4.15	H15	△ 3.00	H22	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定見込み ●	△ 2.91	事後評価	○		
指標2	来街者数	万人	—	—	1,200	H17	1,400	H22	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定見込み ●	1,423	事後評価	○		
指標3	地区内人口	人	154	H14	220	H17	500	H22	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定見込み ●	923	事後評価	○		
指標4	自動車分担率	%	—	—	80	H17	75	H22	モニタリング	—	—	モニタリング	—		
									事後評価	確定見込み ●	62	事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	2か所の公園整備が完了したことや、提案事業「散歩して回廊」事業による自転車・歩行者専用道路への街路樹の植樹により、地区内の住民の緑に対する満足度の向上に寄与した。	—
指標2	大型商業施設及び都市計画道路沿道の商業施設の出店並びに、中川水循環センター上部利用施設や温浴施設等のレジャースポットが生まれたことにより、地区内の魅力の増加に繋がり、来街者が増加した。	—
指標3	土地区画整理事業進捗と共に街並みも整い、住宅も徐々に建築されている。商業施設と隣接しながらも都市計画道路の整備によって安全性を確保し、公園の整備や公共公益施設が予定されていることから、住宅地としての魅力が高まり、地区内の人口の増加に繋がった。	—
指標4	提案事業「散歩して回廊」事業によって、景観や健康を意識してもらうことを目的とした歩道の整備や、道路の整備によってバスの定時性が確保され、バス利用者が増加したことから、自動車での来場者が減った。	—

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○ : 評価値が目標値を上回った場合
 △ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 × : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1	住民一人当たりの公園面積	m ² /人	—	—	0	H18	モニタリング	—	—	1号～4号街区公園など公園事業による住民一人当たりの公園面積の増大により、小目標1の街と田園地区が共存する街並み形成を説明する。	指標1を補完。
							事後評価	確定 見込み ●	13.47		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・土地区画整理事業等による都市計画道路の整備事業、「散歩して回廊」事業による地区外との道路ネットワークの強化や街の魅力の向上により、新三郷駅に立地した大規模商業施設や三郷中央駅周辺開発からの来街者を取り込むことが可能となり、相乗効果を発揮している。
 ・各種事業を関係各課と協議を行ったり、公園のワークショップを通じて地区住民と庁内職員とのコミュニケーションが図れた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
区域内公園の設計についての住民参加型のワークショップの開催	予定どおり実施した	【実施頻度】計9回 【実施時期】平成19年～平成21年 【実施結果】ワークショップを定期的に開催したことにより、住民参加による公園の整備が行えた。	管理は地元町会に委託し、必要に応じて市も実施していく。
	予定はなかったが実施した ●		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
地域活性化のための町会創設	予定どおり実施した	新しい地区において、住民同士の交流を促すために町会を創設する。またそれに併せて街区公園の管理をお願いします。	三郷インターA地区土地区画整理組合	新しい地区の交流を促すため、市も必要あれば協力する。
	予定はなかったが実施した ●			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
三郷インターチェンジ周辺地区 社会資本総合整備計画事業事後評価検討会議	みどり公園課 道路治水課 健康推進課 まちづくり事業課	平成22年10月8日	まちづくり事業課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4	その他の数値指標1					
指標名		樹木・街路樹の緑の多さの満足度	来街者数	地区内人口	自動車分担率	住民一人当たりの公園面積					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見				
基幹事業	道路:市道2055号線(無名2020号橋)	—	地区内に4箇所の公園事業、緑道の整備事業が実施されたことが数値改善への要因といえる。	◎	地区内に大型店舗ができ、また新たに多目的広場の設置により来街目的の増加、緑道の整備により到達手段の増加といった事業成果により来街者の増加に繋がった。	○	地区内に土地区画整理事業が実施されており、事業の進捗に伴い、街並みが整ってきたことに加え、近隣の公園や緑道といった景観や商業施設までの利便性が、住居としての魅力の向上に寄与し、結果的に人口の増加に繋がった。	◎	地区内までの交通ルートに係る道路整備や区画整理事業の進捗、緑道の整備がなされたことが徒歩でも安全なルートを生み出した。また、バスなどの交通手段も充実し、結果的に自動車による来街者の減少に繋がった。	—	地区内に4箇所の公園事業が行われたことで、地区内における一人当たりの公園面積が増加した。
	公園:インターA地区1号街区公園	◎		○		○					
	公園:インターA地区2号街区公園	◎		○		○					
	公園:インターA地区3号街区公園	◎		○		○					
	公園:インターA地区4号街区公園	◎		○		○					
	地域生活基盤施設:二郷半用水緑道(緑地)	◎		◎		○					
	地域生活基盤施設:中川水循環センター上部利用施設(広場)	○		◎		○					
提案事業	地域創造支援事業:散策路「散歩して回廊」整備	○	◎	○	○	○	—	—	—	—	
関連事業	三郷インターA地区土地区画整理事業	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	三郷インターA地区近隣公園整備事業	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
	三郷インター南部土地区画整理事業	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	

※指標改善への貢献度
 ◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 —:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4	その他の数値指標1
目標は達成したが、評価値はマイナスなので、公園の整備や地域の植樹を増やし、住民満足度を上げる。	地域内の各施設や店舗と連携を図り、イベント等を開催し、地域としての魅力を増やす。	地域内の各施設や店舗と連携を図り、イベント等を開催し、地域としての魅力を増やす。	地区外の地区内に係る未整備の道路を整備し、より利便性の高いアクセスを確保し、バス等の定時運行を図る。	土地区画整理事業で計画されている公園整備を実施し、住民一人当たりの公園面積の増加に寄与する。	

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
三郷インターチェンジ周辺地区 社会資本総合整備計画事業事後評価検討会議	みどり公園課 道路治水課 健康推進課 まちづくり事業課	平成22年10月8日	まちづくり事業課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
土地区画整理事業で生み出される道路と既存の道路との調和	関連事業の土地区画整理事業の進捗により、インターチェンジからの交通の利便性が向上し、既存の道路とも調和がしっかりとれている。	第二大場川の整備及び美化 土地区画整理事業地区外の道路整備	
自転車や徒歩でも安心して通行できるアクセス路の整備	二郷半緑道の整備や、提案事業「散歩して回廊」整備などの効果で、自転車と徒歩による通行の安全性を確保した。		
渋滞解消のため、道路機能の改善	計画当初は、商業施設がオープンして間もない頃だったため、渋滞が頻繁に発生していたが、土地区画整理事業の進捗により道路が整備され、渋滞が解消された。		
まちの魅力を高めるため、汚水処理施設や調節池の有効利用	中川水循環センター上部を多目的広場として緑地化し、運動公園としてオープンしたことで、地区内の魅力が高まったといえる。		
未整備水路の緑道の連続性の確保	二郷半用水について、緑道が未整備であったため、整備することによって景観の向上と「自転車や徒歩でも安心して通行できるアクセス」に貢献できた。	用水路は整備されたが、今後用水路沿いは地区外で未整備部分もあるため、整備を行う。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	土地区画整理事業で生み出される道路と既存の道路との調和	スムーズな交通を確保するため、地区外未整備部分の道路の整備を行い、地区内道路との更なる調和を図る。	都市計画道路「駒形線」整備事業
	自転車や徒歩でも安心して通行できるアクセス路の整備	二郷半緑道は景観保護のため、街路樹の適切な管理を行うと共に、自転車と歩行者を分離する自転車専用通行帯設置整備方策を実施する。	「散歩して回廊」事業 自転車専用通行帯設置整備
	渋滞解消のため、道路機能の改善	スムーズな交通を確保するため、地区外未整備部分の道路の整備を行い、地区内道路との更なる調和を図る。	都市計画道路「駒形線」整備事業
	まちの魅力を高めるため、汚水処理施設や調節池の有効利用	中川水循環センター上部利用施設の活用を促進するために、市民へ開放するだけでなく、市としてもより魅力を高めるために、施設を利用したイベントを設ける。	イベント開催の為の支援事業
	未整備水路の緑道の連続性の確保	二郷半緑道について、地区外では現在未整備部分もある。今後は整備を行い、緑道の連続性を確保し、地区内へのアクセスをより安全なものとする。	「散歩して回廊」事業 自転車専用通行帯設置整備

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	第二大場川の整備及び美化	第二大場川は今年度から埼玉県により、水辺再生事業検討会議を発足しており、この会議を通じて河川の美化及び親水性のある整備を行うよう埼玉県に働き掛ける。	水辺再生100プラン 第二大場川再生事業
	土地区画整理地区外の道路整備	地区外の地区内に係る未整備道路部分の整備を行い、土地区画整理事業によって生まれた新たな道路との調和を図る。	都市計画道路「駒形線」整備事業
	二郷半用水緑道の整備	二郷半用水路沿道未整備部分を緑道として整備を行い、緑道の連続性を確保する。	「散歩して回廊」事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

評価委員会において以下のような意見を頂いた。
 ・区画整理地区外の道路についても、地区内の事業進捗に併せ、整備をすべきである。
 ・二郷半用水沿いの道路整備について、景観や安全性を考慮した歩行者空間の確保をすべきである。
 ・希少種であるキタミソウについて、生態の保護の為、マコモに占領されている部分を削るべきである。
 ・公園や水路について、付近の住民に「自分たちの公園」という意識を持たせ、清掃等の維持管理を進んで行うように促す。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	樹木・街路樹の緑の多さの満足度	点	△ 4.15	H15	△ 3.00	H22	確定 ●	△ 2.91	○	あり	—	—	—
指標2	来街者数	万人	1,200	H17	1,400	H22	確定 ●	1,423	○	あり	平成24年5月	区域内大型店舗へのヒアリング結果を基に算出する。	—
指標3	地区内人口	人	220	H17	500	H22	確定 ●	923	○	あり	平成23年4月	住民基本台帳を基に、算出する。	—
指標4	自動車分担率	%	80	H17	75	H22	確定 ●	62	○	あり	平成24年5月	区域内大型店舗へのヒアリング結果を基に算出する。	—
その他の数値指標1	指標1の補完 住民一人当たりの公園面積	m ² /人	0	H18			確定 ●	13.47			平成24年5月	人口一人と公園の割合を求め、一人当たりの公園面積を算出する。	—
その他の数値指標2							確定 ●						
その他の数値指標3							確定 ●						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	目標に沿って指標数値が設定されていた為、事業の成果として目標数値を達成することができた。	指標や数値はデータが算出しやすいもので構成されていた方が、モニタリング等も行いやすい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	歩道を整備することにより、地区内大型店舗へは買い物だけでなく、歩くなかで景色を楽しんで頂き、歩行もしくは自転車での通行する意識を高められた。	数値目標は事業の成果を示す大事な指標であることから、今後は成果が十分であると明確に判断できる指標を設ける。
	うまくいかなかった点	数値目標と事業の整合性は図れていると思われるが、内容が市民にわかりづらい点もある。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	住民参加は地域内の街区公園の整備について一緒に検討を行った。多様な意見があり、地域で管理してもらうことから、住民の方たちに満足のいく公園整備ができたと思う。	住民参加はまちづくりにおいて重要であるため、今後も住民参加型のワークショップやイベントを設けて行きたい。
	うまくいかなかった点	事後評価シート(原案)の公表にあたって、市民から意見徴収を行ったが、意見がなかった。まだ事業について市民への浸透が進んでいないか、もしくは内容に関して不明な点があると思われるので、もう少し分かりやすい形で市民へ公表できればよかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の事後評価を予定している地区
 本市において平成25年度に三郷中央地区、平成26年度に三郷北部地区において事後評価を実施する予定。
 当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載する。	平成22年10月13日～10月29日	平成22年10月13日～10月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・担当課へ直接メール ・FAXで文書送信 ・担当課へ郵送 ・担当課へ直接持参 	まちづくり事業課
広報掲載・回覧・個別配布	市で発行している広報誌へ事後評価原案の公表について記載する。	広報みさと9月号 平成22年9月15日発行	平成22年10月13日～10月29日		
説明会・ワークショップ					
その他	窓口で閲覧	平成22年10月13日～10月29日	平成22年10月13日～10月29日		

住民の意見	なし。
-------	-----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	野澤 千絵 (東洋大学工学部建築学科准教授)	平成22年11月4日	まちづくり事業課	三郷市公共事業事後評価実施要綱	独自に設置
その他の委員	小出 修 (区画整理促進機構講師) 堀切 和喜 (三郷インターA地区土地区画整理組合理事長) 島根 莞爾 (三郷インター南部土地区画整理組合理事長)				

審議事項※1	委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	
方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
成果の評価	都市再生整備計画で掲げた指標及び任意に追加したその他の指標の評価結果について適正であると確認された。また、評価の計測方法や目標達成度、見込みの値とした理由についても適正であると確認された。
実施過程の評価	住民参加型ワークショップで得た意見や要望が事業に反映され、適正に行われたことが確認された。また、「持続的なまちづくり体制の構築状況」に関して、町会等の地元組織を活用すべきとの意見があった。
効果発現要因の整理	指標ごとの効果発現要因を説明し、その判断について適正であることが確認された。
事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表について、公表に至るまでの市で行った手順について説明し、妥当であると認められた。
その他	特になし。
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは、妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	
今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> 区画整理地区外の道路についても、事業進捗に併せ、整備すべきとの意見があった。 二郷半用水沿いの道路整備について、景観や安全性を考慮した歩行者空間の確保をするようにとの意見があった。 希少種であるキタミソウについて、生態の保護の為、マコモに占領されている部分を削るべきとの意見があった。 公園や水路について、付近の住民に「自分たちの公園」という意識を持たせ、清掃等の維持管理を進んで行うよう促すべきとの意見があった。
フォローアップ	事業終了後のフォローアップ計画について、妥当であると認められた。
その他	特になし。
今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は、妥当であることが認められた。
その他	特になし。

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(案)

都市再生整備計画

みさと インターチェンジ 周辺地区
三郷 さいたま みさと しゅうへん ちく
(第4回変更)

さいたま 三郷市
埼玉県

平成23年 月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	ミサト 三郷市	地区名	ミサト 三郷インターチェンジ周辺地区	面積	273 ha
計画期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度

目標

ピアラシティの賑わいと周辺の田園創造地との調和に配慮したまちづくり

- 目標1 街と田園地区とが共存する街並み形成
- 目標2 街の多機能化の推進
- 目標3 地域住民が水と緑を体感できる環境整備：散策路「散歩して回廊」の提案
- 目標4 地域住民への余暇、レクリエーションの場の提供

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

※街と田園地区との共存

地区内の狭隘道路や橋及び交差点を改良し周辺の交通渋滞を軽減することにより、地区に連担する市街化調整区域(田園創造地区)への通過車両を排除し、調和ある街並みを形成することが求められる。

※街の多機能化

地区南側に位置する中川処理センター内覆蓋施設上部に多目的広場を整備することにより、彦野調節池に整備予定の多目的広場と連携した利用が可能となり、まちづくりの目標である地区の多機能化が図られる。また、中川処理センター多目的広場は広域防災拠点として位置づけられており、早期の整備が求められる。

※散策路「散歩して回廊」の環境整備

ピアラシティの開業後、自動車による来街者の割合が高く、周辺環境への影響が懸念されている。

ピアラシティや沿道商業、都市公園、多目的広場を、都市計画道路や緑道で連結するように整備し、ソフト事業として「散歩して回廊」(散歩道)を提案し、パンフレット等でPRIに努めるとともに、要所に案内図、周回コースを表示し、単に自動車を利用して買い物するために来る街ではなく、徒歩や自転車で来れば、水と緑を体感しながら散歩が楽しめる環境整備を図る。

※環境に優しいまちづくりの推進

自動車から公共交通機関への乗り換えを促すためのさまざまな方策を検討し、モデル事業として「駐車場情報混雑情報ナビシステムの構築」及び「渋滞末尾型パークアンドライド事業」を実施する。

課題

・区画整理地区内の補助幹線(幅員14m)の延長に位置する第二大場川の橋(無名橋)が狭隘であり、かつ転落防止柵もなく、区画整理地区の住居系地区に連担していることもあり、安全上支障がある。また、地区の東側の既存市道(記念碑通り)までの市道についても幅員が2.8m(舗装部は1.8m)しかなく、区画整理事業で生み出される道路との調和の面でも課題がある。

・多くの住民が住む「みさと団地」や「パークフィールドみさと」や、周辺住民が、自転車や徒歩で安心して通行できるアクセス路の整備が求められる。

・高次商業都市の開業もあり、周辺道路の渋滞が常態化しており、また渋滞時には周辺の狭い道路へ通過車両が進入し住民や通行者の安全を脅かしている。既存道路の交差点改良などにより道路機能の改善を図る必要がある。

・三郷インターチェンジ周辺地区のまちづくりの整備方針である多様な都市機能の整備効果を発揮するためには、まちの魅力を高めていく必要があり、汚水処理場覆蓋施設や調節池の有効利用による運動公園の整備が求められる。

・インターチェンジの南側(三郷インター南部地区)に流通工業系の土地利用を想定した組合施行による土地区画整理事業が計画されている。当該地区の西側沿線に二郷半用水路があり、当区間が市内で唯一水路断面が未整備であり、緑道の連続性に支障があり早期の整備が求められる。

将来ビジョン(中長期)

・三郷市総合計画では、商業・流通業務・工業の拠点として、人・物・情報・文化の交流拠点づくりを目指すこととなっている。また、地区の南側一帯については中川処理センター覆蓋施設を活用した「水と緑のレクリエーション拠点として位置付けている。

・都市計画マスタープランにおいては、インターA地区土地区画整理事業地区(インターA地区)に隣接する東側地区については、田園創造地区として位置付けられている。

・整備・開発及び保全の方針においては、広域交通拠点の利便性を活かし、土地区画整理事業を推進して、商業、流通、工業などの多様な機能が複合する産業基盤を形成するとともに、快適な居住環境を備えた住宅地の形成を図ることとなっている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度	従前値	目標年度
樹木・街路樹緑の多さの満足度	点	彦成地区における満足度の加重平均値	緑道、公園整備後における満足度。市全体の指標との比較(市全体Δ 3.05)	Δ 4.15	Δ 3	平成15年度	平成22年度
来街者数	万人	ピアラシティ来街者数	地区の魅力を高め、買い物客及びその他目的とした来街者数を増やす。	1,200	1,400	平成17年度	平成22年度
地区内人口	人	地区内に住民登録している人数	まちづくりの目標の一つである住宅地の整備の熟度が確認できる。	220	500	平成17年度	平成22年度
自動車分担率	%	来街者のうち乗用車による来場者の割合	「散歩して回廊」の提案主旨に則り、事業の効果を図る一つの指標として取り上げる。	80	75	平成17年度	平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>街と田園創造地とが共存する街並み形成 ・土地区画整理事業の進捗にあわせて、緑道を整備し、高次商業都市ピアラシティへの動線整備を図る。整備方針としては、自動車 と歩行者・自転車通行との動線を区分した安全で快適なアクセス路を確保する。</p>	<p>方針に合致する主要な事業 基幹事業：道路(橋梁)整備(市道2055号線) 基幹事業：地域生活基盤施設(二郷半緑道整備) 提案事業：地域創造支援事業(散策路(緑道)整備を行う為の二郷半用水路整備)</p>
<p>街の多機能化の推進 ・地区の北西部に位置する二郷半用水路を緑道として整備し、ピアラシティの玄関口に相応しい景観形成を図るとともに、街区公園や多目的広場の整備を推進し、水と緑を体感できる環境を創造する。さらに、これら施設を有機的に街並みの景観に取り込める環境整備を図る。</p>	<p>基幹事業：地域生活基盤施設(二郷半緑道整備) 基幹事業：公園整備(インターA地区街区公園(1号、2号、3号、4号)整備) 提案事業：地域創造支援事業(散策路(緑道)整備を行う為の二郷半用水路整備)</p>
<p>地域住民が水と緑を体感できる環境整備：散策路「散歩して回廊」の提案 ・緑道、都市計画道路の歩道、区画街路等を活かしたまちづくりを進め、ピアラシティや沿道商業施設、都市公園、多目的広場を線的に結び、来街者がショッピングだけではなく、スポーツ、レジャーが気軽に楽しめる環境整備を図ることを目的として、散策路「散歩して回廊」を提案し、要所にポスター等で案内図やコース、距離を表示する。</p>	<p>提案事業：地域創造支援事業(散策路「散歩して回廊」の提案) (散策路(緑道)整備を行う為の二郷半用水路整備)</p>
<p>市民への余暇、レクリエーションの場の提供 ・中川流域下水道中川処理センターの覆蓋施設の上部に、多目的広場を整備し、インターA地区に整備予定の彦野調節池上池底部の多目的広場と相互に補完するスポーツ、レジャー施設を整備し、多様な都市機能の集積の実現を図る。</p>	<p>基幹事業：地域生活基盤施設(中川処理センター多目的広場整備) 提案事業：地域創造支援事業(散策路「散歩して回廊」の提案)</p>
<p>その他 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動</p> <p>当地区においては、今後とも商業や流通・工業施設の集積が予想され、また、地区の南部にはインター南部土地区画整理事業が立ち上がり、継続的な周辺環境保全方策が求められる。三郷インターチェンジ周辺地区の周辺に位置する田園創造地区との調和を考慮し、域外からの自動車交通の効率的な誘導方策を検討する。また、区域内に整備されることとなる彦野調節池の上池底部にも多目的広場を整備し、三郷処理センター多目的広場とともに効率的に活用するため、第二大場川の改修計画と整合を図り緑道を整備し、これら二つの施設とピアラシティとの動線確保を図る。散策路「散歩して回廊」をコンセプトとして、タウンウォッチングが楽しめる街並み形成を継続的に推進する。</p>	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	583	交付限度額	220	国費率	0.377
---------	-----	-------	-----	-----	-------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路		市道2055号線	三郷市	直	—	H21	H22	H21	H22	72	72	72		72
公園		インターA地区1号街区公園他3箇所	三郷市	直	—	H19	H22	H19	H22	130	130	130		130
古都及び緑地保全事業														
河川														
下水道		—			—									
駐車場有効利用システム		—			—									
地域生活基盤施設		—	三郷市	直	—	H18	H21	H18	H21	194	194	194		194
高質空間形成施設		—			—									
高次都市施設		—			—									
既存建築物活用事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
バリアフリー環境整備促進事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										396	396	396	0	396

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業	散策路「散歩して回廊」整備	三郷インターチェンジ周辺地区	三郷市	直	—	H18	H22	H18	H22	187	187	187		187
事業活用調査		—			—									
まちづくり活動推進事業		—			—									
合計										187	187	187	0	187

合計(A+B) 583

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
三郷インターA地区土地区画整理事業	インターA地区	組合	国土交通省	86.3ha		○			H10	H24	22,025
三郷インターA地区近隣公園整備事業	インターA地区	三郷市	国土交通省	13,500㎡				○	H23	H24	285
三郷インター南部土地区画整理事業	インター南部地区	組合	国土交通省	44.4ha				○	H20	H27	11,206
合計											33,516